

「シドニー便り 2. 0」(第4回)

～ ダーウィン訪問: My first trip to Darwin ～

11月17日

11月10日から13日まで、北部準州のダーウィンを訪れました。在シドニー総領事館は、シドニーが位置するニューサウスウェールズ州とともに、北部準州を所轄しています。着任から7週間目の訪問です。

シドニーから飛行機で4時間半。オーストラリアの広さを実感します。そして到着した空港での熱気。気温35度、湿度80%は、シドニーとは大きな違いですが、私の実家の高知県に戻ってきたような、懐かしい気候と感覚でした。



最初の訪問にあたり、自分なりのミッションとして、①自身のイントロダクションと現場の把握・勉強、②慰霊と和解への取組、③交流に携わる方々への応援、の三つを設定しました。

まず、①のイントロダクション&現場把握です。オハンロン行政官(州の総督に相当)はオーラを感じる方で、日本との交流経験もある日本びいきであることに勇気づけられました。マニソン副首席大臣は、経済状況と将来目標、エネルギー、重要鉱物、水素、観光、農業など、当地の現状と潜在力を立て板に水のような形でエネルギーに語ってくれました。年齢的にもまだまだ将来性のある素晴らしい女性リーダーです。ヴァツカリス市長は包容力のある政治家という印象です。コロナ禍を克服する、ないしコロナと共生する中での、日本との交流の再活性化への熱い期待、特に学生間の交流への期待を語ってくれました。そしてフィノキア口野党代表。エネルギー溢れる女性リーダーで、現地の課題を率直に語ってくれました。



州政府からは、州情勢全般、様々な投資機会、ガスや重要鉱物を中心とする資源エネルギー、の3回にわたる、詳細なブリーフィングセッションの機会を設けて頂きました。いずれもメッセージ性が明瞭で、素晴らしいプレゼンテーションでした。「宣伝広告活動とはこうやるんだ」という意味でも勉強になりました。

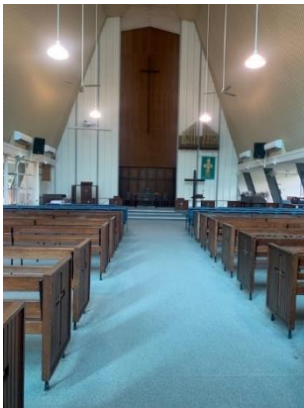
当地でINPEX社のイクシス LNG プロジェクトを誇らし気に語らない人はいません。世界最大級のLNG海上生産施設であり、日本企業単体として最大の投資であるだけでなく、現地コミュニティと一体になったINPEXの企業行動、CSR活動は高い評価を得ています。INPEX本社を訪問して概況説明を受けましたが、このプロジェクト単体でロシア全土からのLNG輸入量に匹敵するLNGが日本にもたらされていることに気づき、改めてその巨大さに驚嘆しました。同時に日本企業による素晴らしいCSRを、同胞として誇らしく思いました。



続いて②の慰霊と和解です。ダーウィンは、先の大戦で、日本軍から64回の空爆を受けました。日本ではあまり知られていない事実だと思いますが、オーストラリアでも、このことが語られるようになったのは最近のことで、多くの人々にとっては「知られざる歴史」であるとのことをお話を伺いました。軍事博物館では、クランプ博士・館長から、ダーウィン空爆にまつわる丁寧な説明を受けました。

先人たちが戦後の和解に取り組んだおかげで、今の日豪関係の礎があります。連合協会と藤田サルベージとの交流は先人たちの重要な努力の一つです。藤田サルベージはダーウィン沖合の航行を妨げていた沈没船の撤去に従事し、その金属から作られた77の十字架を連合協会に寄贈しました。聖書にある「罪を犯した人を7回まで許すべきでしょうか」「77回まで許すべきです(＝つまり無限に許すべき)」との言葉を引用したというお話を、連合協会のメリット牧師から伺いました。

先の大戦では、日本の潜水艦「伊号第124号」がダーウィン沖合で沈没し、80名の尊い命が失われ、今なお沈んだままです。今回の訪問で、伊号第124号の慰霊碑に献花を行いました。また、北部準州 Heritage からは、水中ダイバーを活用して、伊号の3Dモデルを作成する計画があるという新しい話も伺いました。さらに、1900年前後に居住されていた日本人が埋葬されている墓地も訪問し、献花を行ってまいりました。墓碑の数は10数で、多くの方々が水産業に携わっていたようです。



そして訪問した11日は Remembrance Day。第一次大戦の終戦を祝う日です。第一次大戦では、日豪は同じ連合国の一員として戦い、日本の巡洋戦艦「伊吹」がインド洋を横断して ANZAC 軍(オーストラリア・ニュージーランド連合軍)を護衛したというエピソードもあります。外国の総領事として唯一、この厳かな Remembrance Day Service 式典に参列する機会を得ました。



最後に③の交流関係の応援です。当地では AJANT(北部準州豪日協会)が日本との交流に活発に活動しています。とてもありがたい話であり、可能な限りその活動を支援していきたいと思います。来年前半には「日本祭り」を開催する計画もあるようですので、総領事館そして関係諸機関の協力も得ながら、開催を後押ししていきたいと思います。人口500万人のシドニー都市圏と比較すれば、北部準州は25万人と人口規模は小さいですが、交流に携わる人々の熱い思いと日本へのシンパシーは、全国共通だと実感した次第です。



次の訪問は2月でしょうか。2月19日のダーウィン空爆戦没者追悼式典は、北部準州、そして総領事館にとり、重要な日です。近い将来の再訪を心に誓い、ダーウィンを後にしました。

(ちなみに日曜日夜にシドニーに戻り、その翌日の月曜日そして火曜日はキャンベラ出張でしたので、シドニーをずいぶん空けてしまいました。水曜日16日は、シドニーでの活動を取り戻すべく、有力市議会議員、州警察長官、州首相府次官との面会など、精力的に動き回りました。今週末の土日(19、20日)は、姉妹都市関係行事のためにダボーに出張します。次回の「シドニー通信2. 0(第5回)」は、この「姉妹都市関係がもたらしてくれたもの」をテーマとして、エッセイを綴ろうと思います。)

(以上)